

『片腕』

- 現実と幻想の融合
  - 
    突飛な設定
    - 娘が右腕を取り外して男に貸す
    - 現実と非現実の絶妙なバランス
  - シュール
    レアリスムの手法
    - ・ラジオから流れる音声シーン
    - ・娘の腕を自分の腕と取り替え
    - ⇒ 現実と超現実が溶け合う前衛
- 腕が埋める孤独
  - 三島由紀夫 
    - 『片腕』について評価
    - 「相手が片腕なればこそ」
  - 主人公
    - 人の一部である片腕を借りる
    - ⇒ 初めて他者と本当の交流を果たす
  - 人間関係の本質
    - 誰かと部分的に気が合う
    - ⇒ 一部ゆえに埋められる孤独が存在
- 官能と純粋の二重性
  - 娘の腕の描写 — 純潔への憧れと官能的な欲望の交錯
  - 
    純粋の強調シーン
    - 清らかで優雅な円み
    - まだ空気に慣れていない肌の色
    - ⇒ 深い官能性を帯びている
  - 二重性 — 物語に独特の緊張感